愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第 11 集

阿 弥 陀 寺 遺 跡

1 9 9 0

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

愛知県海部郡甚目寺町は、甚目寺観音や法性寺などの古刹が語るように歴史の息づいている町であります。しかし、現在そのような古い町にも次々と都市化の波が押し寄せており、町の姿も刻々と変わりつつあるのです。そうした現代の動きの中で、阿弥陀寺遺跡は弥生時代と鎌倉・室町時代に生きた祖先の姿を今に伝えてくれたのであります。

阿弥陀寺遺跡の発掘調査は、甚目寺町北西部の田園地帯を北東から南西に走る名古屋環状2号線(一般国道302号)建設に伴う事前調査として、愛知県の委託事業(教育委員会を通じて)として財団法人愛知県教育サービスセンター埋蔵文化財発掘調査部が昭和56年に開始しました。その後昭和60年には調査主体が財団法人愛知県埋蔵文化財センターに移行し、昭和61年に発掘調査は完了しました。それ以後は、調査成果の公表に向けて整理・研究を進めてまいりましたが、ようやくここに本書をもって阿弥陀寺遺跡の全容を示すに至りました。本書が甚目寺町の歴史の一端を記録にとどめるとともに、祖先への顕彰になればと存じます。

最後に、この調査を遂行するにあたり、地元住民の方々を始め、 関係者および関係機関の御理解と御協力をいただきましたことに対 し、厚く御礼申し上げる次第であります。

平成2年3月

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター 理事長 松 川 誠 次

- 1. 本書は愛知県海部郡甚目寺町に所在する阿弥陀寺遺跡の発掘調査報告書である。
- 2. 調査は名古屋環状 2 号線(一般国道302号)建設に伴う事前調査であり、愛知県の委託事業(教育委員会を通じて)として愛知県教育サービスセンターおよび事業を引き継いだ財団法人愛知県埋蔵文化財センターが、昭和56年10月から昭和61年 6 月まで実施した。
- 3. 調査体制は別に記載したとおりである。
- 4. 調査にあたっては、次の関係各機関の御協力を得た。 愛知県教育委員会文化財課、建設省英知国道工事事務所、日本道路公団名古屋建設局、甚目寺町 教育委員会。
- 5. 調査・報告書作成にあたっては次の方々の御協力があった。(順不同・敬称略) 加藤安信、遠藤才文、紅村弘、高橋信明、立松彰、贄元洋、岡本茂史、加納俊介、杉崎章、中野晴久、伊藤久嗣、新田洋、鈴木克彦、増田安生、寺沢薫、藤田三郎、松本洋明、兼康保明、岩崎直也、小竹森直子、山崎秀二、正岡睦夫、平井典子、島崎東、福島正美、湯尻修平、栃木英道、増山仁、笹沢浩、神村透、小林正春、市沢英利、中司照世、赤沢徳明、平野吾郎、鈴木敏則、佐藤由紀男、鈴木正博、鈴木加津子、小宮恒雄、松本完、安藤広道、石川日出志、黒沢浩、原口正三、深沢芳樹。
- 6. 報告書作成に関わる整理作業はもっぱら石黒立人があたり、次の方々の協力を得た。 赤塚美智代、亀井けい子、鈴木規子、永金千佳、河合明美、古橋佳子(以上調査補助員)
- 7. 本書の様式
 - ○過去に刊行した「財団法人愛知県教育サービスセンター年報 I ~III」による概要報告の記載事項はすべて本書で改めるとともに、かつて報告した内容も今回取捨選択を行っている。対応関係は本書で示しているが、未掲載部分は当該年報を参照していただきたい。
 - ○平面図基準座標・遺構記号:本センターの慣用法(昭和59年度以降)によった。ただし、調査時においては映和58年まで任意の座標系を使用していた。
- ○遺構番号は弥生時代: 0~999、鎌倉・室町時代:1000~とし、遺物番号は弥生時代: 0~1999、 鎌倉・室町時代:2000~とした。
- ○実測図の縮尺値:遺構図の図版は、弥生時代関係がプラン 1/1000、 1/500、 1/200、土層セクション 1/100、鎌倉・室町時代関係が 1/2000、 1/400、 1/200。挿図は図中に示したが、原則はプラン・セクションが 1/80、土層セクションが 1/40、出土状態が 1/40。

遺物は原則として土器が 1/4(拓図 1/3)、石器が石鏃・石錐 2/3、それ以外 1/2、木器は 1/3として、まぎらわしい場合と例外については図中に縮尺値を表示した。したがって、スケール目盛り表示のない場合には注意が必要である。

- ○遺物写真は縮尺値を原則 1/3とし、それ以外は縮尺値を表示したが、あくまで目安にすぎない。 ○註・参考文献は巻末に一括して記載した。
- 8. 本書の執筆は石黒立人、北村和宏、森勇一、伊藤隆彦、永草康次、楯真美子が分担し、石黒が編集した。分担箇所は各章扉の目次に記載した。
- 9. 本調査に関する資料はすべて側愛知県埋蔵文化財センターで保管している。

調査体制 昭和56年~昭和59年 調査主体 財団法人愛知県教育サービスセンター埋蔵文化財調査部

調査期間	調査指導			組織	事務周	司		調査担当		
昭和56年10月~3月	五十二次的一次机场	\#\	工 (** 上)%\	: == +- +-	-7 E	E	and.	**************************************	-t- \r	-++- (+-)
	愛知学院大学教授		正一(考古学)	調査部		丹羽	功	発掘調査所長	高沢	茂樹
	名古屋大学教授		仏太郎(地理学)	庶務補	申佐	水谷	良夫	主事	中村	美規
	信州大学教授		義一(考古学)	主査		松原	広治	"	竹島	真澄
	南山大学教授	伊藤	秋男(考古学)	主事		松田	定次	"	石黒	立人
	東海市平州記念館	立松	彰(考古学)	"		官沿身	真四郎			
調査期間										
昭和57年4月~6月	同9月~昭和58年	о н								
hh hh 37 午 4 万 ~ 0 万	愛知学院大学教授	, .	正一(考古学)	調査部	#7 E	丹羽	74	及促細木形目	高沢	本件
	发		公太郎(地理学)			水谷	功	発掘調査所長 主事	中村	茂樹 美規
	石口至人子教授 信州大学教授		五人即(地垤子) 義一(考古学)		用亿	-	良夫 広治	土争		天况 真澄
				主査		松原			竹島	
	南山大学教授 京都大学霊長類	伊藤	秋男(考古学)	主事 ″		松田	定次 真四郎	"	石黒	立人 才文
		江西	四羊(人類兴)	"		官伯身	似四点	"	遠藤	
	研究所教授	江原	昭善(人類学)						服部	良夫
	東海市平州記念館	立松	彰(考古学)					"	片山	正己
調査期間 昭和58年10月~昭和5	9年1月 同3月									
	愛知学院大学教授	澄田	正一(考古学)	調査部	8長	中林	茂	発掘調査所長	高沢	茂樹
	名古屋大学教授	井関引	公太郎(地理学)	庶務補	能	水谷	良夫	主事	中村	美規
	信州大学教授	大参	義一(考古学)	主査		稲垣	隆一	"	石黒	立人
	南山大学教授	伊藤	秋男(考古学)	主事		松田	定次			
	京都大学霊長類			"		伊藤	義幸			
	研究所教授	江原	昭善(人類学)			<i>D</i>				
	金沢大学教授	藤	則雄(地質学)							
調査期間										
昭和59年4月~昭和6	0年3月									
	愛知学院大学教授	澄田	正一(考古学)	調査部	8長	中林	茂	発掘調査所長	橋本	雅司
	名古屋大学教授	井関引	仏太郎(地理学)	管理認	長	斎藤	樹三	主事	遠藤	才文
	信州大学教授		義一(考古学)	主査		稲垣	隆一	"	清水電	富太郎
	南山大学教授		秋男(考古学)	主事		伊藤	義幸	"	福岡	晃彦
				"		森	信孔	//	金原	宏
								"	上部	肇
								"	竹内	尚武
								"	梅村	清春
								"	梅本	博志
								"	佐藤	公保
								"	石黒	立人
								嘱託	宮腰	健司
								"	長島	広
								"	安藤	義弘

調査体制 昭和60年~昭和61年 調査主体 財団法人愛知県埋蔵文化財センター

調査期間 昭和60年4月~6月

理事長		専門委員
奥田 信之	県教育長	考 古 学 楢崎 彰一 名古屋大学教授
常務理事		文献史学 早川 庄八 //
中林 茂	兼事務局長	地 理 学 井関弘太郎 "
理 事		建 築 史 学 浅野 清 愛知工業大学教授
井関弘太郎	名古屋大学教授	動·植物学 渡辺 誠 名古屋大学助教授
伊藤 秋男	南山大学教授	形質人類学 池田 次郎 京都大学教授
大参 義一	信州大学教授	保 存 科 学 江本 義理 東京国立文化財研究所保存科学部長
坪井 清足	奈良国立文化財研究所長	調査担当
楢崎 彰一	名古屋大学教授	調査課長橋本雅司
三浦 小春	光陵女子短期大学教授	課長補佐兼主査 遠藤 才文
花木 蔦雄	都市教育長会会長(一宮市教育長)	課長補佐兼主査 清水雷太郎
伊藤 芳	町村教育長会会長(蟹江町教育長)	主 査 上部 肇
大橋 雄六	県土木部長	主 事 浅井 和宏
小島 俊夫	県教育委員会社会教育部長	クリートの表示を表示しています。 クリートの表示を表示を表示しています。 クリートの表示を表示しています。 クリートの表示を表示しています。 クリートの表示を表示を表示しています。 クリートの表示を表示を表示しています。 クリートの表示を表示を表示を表示しています。 クリートの表示を表示を表示を表示しています。 クリートの表示を表示を表示を表示しています。 クリートの表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示しています。 クリートの表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表
林 正治	清洲貝殼山貝塚資料館長(清洲町長)	事務局
鈴木 睦美	県陶磁資料館副館長	管理課長 斎藤 樹三
監 事		主 査 稲垣 隆一
本田 辰郎	県出納事務局次長	主事伊藤義幸
田中 隆三	県教育委員会総務課長	// 森 信孔
		〃 小倉 晴美

調査期間 昭和61年4月~12月

理事長		専門委員		
小金 潔	県教育長	考 古 学	楢崎 彰一	名古屋大学教授
常務理事		文献史学	早川 庄八	名古屋大学教授
中林 茂	兼事務局長	地 理 学	井関弘太郎	名古屋大学教授
理 事		建築史学	浅野 清	愛知工業大学教授
井関弘太郎	名古屋大学教授	動·植物学	渡辺 誠	名古屋大学助教授
伊藤 秋男	南山大学教授	形質人類学	池田 次郎	岡山理科大学教授
大参 義一	信州大学教授	保存科学	江本 義理	東京国立文化財研究所保存科学部長
坪井 清足	脚大阪文化財センター理事長	岩 石 学	諏訪 兼位	名古屋大学教授(7月1日就任)
楢崎 彰一	名古屋大学教授	木材組織学	木方 洋二	名古屋大学教授(7月1日就任)
三浦 小春	中日新聞嘱託	調査担当		
花木 蔦雄	都市教育長協議会会長(一宮市教育長)	調査課長	橋本 雅司	
伊藤 芳	町村教育長協議会会長(蟹江町教育長)	課長補佐兼主	査 竹内 尚武	
	(6月30日辞任)	課長補佐兼主	査 清水雷太郎	
栗本 茂一	〃 (小坂井町教育長)	主 事	浅井 和宏	
	(7月1日就任・11月30日辞任)	嘱託	菅沼 良則	
大溪 紀雄	〃 (吉良町教育長)	事務局		
	(12月1日就任)	管理課長	斎藤 樹三	
大橋 雄六	県土木部長	主 査	青山 光一	
中神 秀雄	県教育委員会社会教育部長	主 事	森 信孔	
林 正治	清洲貝殼山貝塚資料館長(清洲町長)	"	田上 堅三	
日下 英之	県陶磁資料館長	"	小倉 晴美	
監 事				
石原 坂男	県出納事務局次長			
田中 隆三	県教育委員会総務課長			

目 次

第Ⅰ章	調査の	概要	
1.	周査の経緯と	と経過	1
2. ì	遺跡の概観		4
A.	地理的環境	竟と遺跡の立地	4
В.	歷史的環境	竟	6
第II章	調査の	成果	
1. 原	雪序		9
2. 勇	你生時代 …		.2
ΙJ	引 遺構 ···	1	8
	遺物 …		33
II其	∄ 遺構 …	g)3
	遺物 …	8	38
III其	J 遺構 …	13	31
	遺物 …	14	.3
IV其	J 遺構 …		36
	遺物 …		8
3. 釒	#倉・室町時	時代19	13
A.	遺構	19	13
ä	a. 溝 ······		13
1	o. 井戸 …	20)2
(2. 掘立柱類	建物20	18
(d. 土坑 …	21	.1
	€. 墓	21	.4
	f.道	21	.5
1	g. その他	21	.6
1	n. 屋敷地	21	.6
	i .遺構の ^年	年代21	.7
b.	遺物	22	21
	a. 土器・隊	淘磁器類22	21

b. 木製品	242
c. 漆製品	243
d. 金属器	243
e. 石製品	243
第Ⅲ章 分析・考察	
1. 弥生時代の遺構と遺物	245
A. 遺構	245
a. 遺跡の地表面について	246
b. 遺構の変遷について	247
B. 土器 ······	251
a. 前言 ······	251
b. 時期区分および系統区分	253
c . 土器の変化―A系統を中心に	263
d. 土器の変化―外来系を中心に	272
e. 土器の変化一折衷型土器について	280
f . 弥生土器総括	286
C. 石器 ···································	288
2. 自然科学的分析	289
A. 阿弥陀寺遺跡の土器胎土の特徴について	289
B. 阿弥陀寺遺跡から出土した緑色の岩石について	300
C. 阿弥陀寺遺跡から出土した赤色物質のX線回折分析	301
D. 阿弥陀寺遺跡の炭化米について	302
E.「中世土器」の胎土····································	304
第IV章 まとめと課題	
1. 弥生時代	309
2. 鎌倉・室町時代	310
一覧表	311
註•文献	337

挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図	1	第43図	S B 31出土土器 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	47
第2図	調査区位置図	3	第44図	S B 39出土土器 ······	47
第3図	阿弥陀寺遺跡と朝日遺跡	5	第45図	S B 41出土土器 ······	48
第4図	弥生時代中期の尾張平野	6	第46図	SB 43 · 44 土器出土状態	48
第5図	阿弥陀寺遺跡周辺の条里地割り	8	第47図	SB 43 • 44 • 45出土土器 ······	49
第6図	福田川周辺の採集遺物および甚目寺・法性寺出土	玕	第48図	S B 46出土土器 ······	50
丸瓦 …		8	第49図	S B 47出土土器 :	50
第7図	基本土層図位置図	.0	第50図	SB 49出土土器······	51
第8図	基本土層図	1	第51図	SB 52出土土器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	52
第9図	SB 17プラン・セクション ····································	.8	第52図	SB 54出土土器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	53
第10図	東壁際河原石出土状態	.9	第53図	SB 55出土土器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	54
第11図	SB 19プラン・セクション・土層セクション… 1	.9	第54図	SB 56出土土器(1)	55
第12図	SB 28プラン・セクション・土層セクション・柱方	ウ	第55図	SB 56出土土器(2)	56
セクショ	ı > 2	20	第56図	SB 56出土土器(3)	57
第13図	SB 29プラン・セクション	21	第57図	SB 56出土土器(4)	58
第14図	SB 30プラン・土層セクション 2	22	第58図	SB 59出土土器(1)	59
第15図	SB 31プラン・セクション	22	第59図	SB 59出土土器(2)	60
第16図	SB 42・43プラン・セクション 2	23	第60図	SB 66出土土器	60
第17図	SB 45プラン・セクション・土層セクション… 2	23	第61図	SK 73出土土器(1)	61
第18図	SB 49プラン・セクション	24	第62図	SK 73出土土器(2)	62
第19図	SB 51・52プラン・セクション 2		第63図	SK 74出土土器(1) ····································	64
第20図	SB 53プラン・セクション		第64図	SK 74出土土器(2)	
第21図	SB 54プラン・セクション・土層セクション… 2	26	第65図	SK 74出土土器(3) ······	66
第22図	S B 55プラン・セクション 2		第66図	S K 74出土土器 (4)	
第23図	SB 56プラン・セクション		第67図	S K 96出土土器 ······	
第24図	SB 59プラン・セクション		第68図	S K 107出土土器	
第25図	SB 64プラン・セクション		第69図	S K 140出土土器(1)	
第26図	SB 72プラン・セクション		第70図	S K 140出土土器 (2)	
第27図	S A 01プラン・セクション 3		第71図	S K 151出土土器	71
第28図	S D 04・SX 07・08プラン・土層セクション … 3		第72図	S K 181出土土器(1)	72
第29図	S D 04土層セクション写真 3		第73図	S K 181出土土器(2)	
第30図	十坑十層セクション		第74図	S K 185出土土器(1)	74
第31図	S B 15出土土器	33	第75図	S K 185出土土器(2)	75
第32図	S B 17出土土器 · · · · · · 3		第76図	S K 193出土土器	
第33図	S B 19出土土器(1) ····································		第77図	S K 212出土土器	
第34図	S B 19出土土器 (2) 3		第78図	S K 228出土土器	
第35図	S B 28出土土器···································		第79図	S K 280出土土器	
第36図	SB 29土器出土状態 · · · · · · 3		第80図	S K 295出土土器	
第37図	S B 29出土土器 (1) ··············· 4		第81図	S K 297出土土器 ······ 8	
第38図	S B 29出土土器 (2) ························· 4		第82図	S K 314出土土器 ···································	
第39図	S B 29出土土器(3) ····································			419口縁部内面拓図	
第40図	S B 30土器出土状態 4		第84図	S D 10出土土器···································	
第41図	S B 30出土土器 (1) ························ 4		第85図	コブ付太頸壺 (D系統)	
第42図	S B 30出土土器 (1) 4 S B 30出土土器 (2) ···································			続条痕紋系土器	
NITUDI	0 2 00HTTHM (1)		ИМОР	AND	-0

440	a - Children Mil Al	hts	0.77.00.00.1.1.1.77
第87図	Ca 系統精製鉢	第133図	S K 98出土土器
第88図	石器(1) 87	第134図	S K 111出土土器123
第89図	石器(2)	第135図	S K 112出土土器(1)123
第90図	石器 (3) 89	第136図	S K 112出土土器(2)124
第91図	石器(4) 90	第137図	S K 120出土土器 ·····124
第92図	木器	第138図	S K 122出土土器 ······125
第93図	土製品 92	第139図	S K 221出土土器 ······125
第94図	S B 08プラン・セクション ····· 93	第140図	S K 224出土土器 ······126
第95図	S B 13プラン・セクション ····· 93	第141図	S K 247出土土器 ·····126
第96図	S B 18プラン・セクション ····· 94	第142図	S K 298出土土器 ······127
第97図	S B 25プラン・セクション ····· 95	第143図	連弧紋をもつ土器128
第98図	SB 32プラン・セクション・土層セクション… 96	第144図	線刻のある脚状土製品128
第99図	S B 34a • bプラン・セクション ····· 97	第145図	土製円盤他128
第100図	S B 36プラン・セクション 97	第146図	石器(1)129
第101図	S B 58プラン・セクション 98	第147図	石器(2)130
第102図	S B 61プラン・セクション 98	第148図	SB 05プラン・セクション・土層セクション 131
第103図	S K 120土器出土状態····· 99	第149図	S B 11プラン・セクション131
第104図	S K 315土製品出土状態····· 99	第150図	SB 62プラン・セクション132
第105図	SB 12出土土器(1)100	第151図	SB 01プラン・土層セクション133
第106図	S B 12出土土器(2)101	第152図	S B 02プラン・セクション133
第107図	SB 14出土土器102	第153図	SB 04土層セクション133
第108図	SB 18出土土器(1)102	第154図	SZ 01プラン・セクション134
第109図	SB 18出土土器(2)103	第155図	SD 05土層セクション135
第110図	SB 20出土土器103	第156図	SZ 02 (SD 08) 土層セクション135
第111図	SB 21出土土器104	第157図	SZ 03土層セクション136
第112図	SB 32土器出土状態105	第158図	SZ 03プラン・セクション137
第113図	SB 32出土土器106	第159図	環濠土層セクション138
第114図	SB 33土器出土状態107	第160図	環濠土層セクション他・・・・・・・・・・139
第115図	SB 33出土土器(1)108	第161図	突出部および環濠プラン・セクション140
第116図	SB 33出土土器(2)109	第162図	SK 01土層セクション140
第117図	SB 33出土土器(3)110	第163図	SK 23土層セクション・プラン・セクション 141
第118図	SB 61出土土器111	第164図	SK 251土層セクション写真141
第119図	SB 67土器出土状態112	第165図	SB 05出土土器143
第120図	SB 67 · 他出土土器 ······113	第166図	S B 11出土土器144
第121図	SB 68出土土器114	第167図	SB 34出土土器145
第122図	SB 69出土土器114	第168図	SB 40土器出土状態146
第123図	SB 71炉石115	第169図	SB 40出土土器(1)147
第124図	SB 71出土状態・東壁土層セクション116	第170図	SB 40出土土器(2)148
第125図	SB 71出土土器117	第171図	SB 40出土土器(3)149
第126図	SD 09出土土器(1)118	第172図	SB 40出土土器(4)150
第127図	SD 09出土土器(2)119	第173図	SE 01土器出土状態 ······152
第128図	S K 03出土土器 ······120	第174図	SE 01出土土器 ······153
第129図	S K 06出土土器 ·····120	第175図	SE 03出土土器 ······154
第130図	SK 08出土土器120	第176図	SE 06出土土器 ······154
第131図	S K 37出土土器121	第177図	SE 07出土土器 ······155
	S K 67出土土器121		SZ 01 (S D 05) 出土土器·······156

第179図	SZ 02出土土器 ······157	第222図	S Z 1001写真·····214
第180図	SZ 03土器出土状態159	第223図	S F1005写真·····215
第181図	SZ 03 (S D 14) 出土土器 (1) ······160	第224図	屋敷地 1 ~ 3
第182図	SZ 03 (S D 15) 出土土器 (2) ······161	第225図	中世土器の分類(1)222
第183図	SZ 03出土土器(3) ······162	第226図	中世土器の分類(2)223
第184図	SD 03出土土器164	第227図	中世土器の分類 (3)224
第185図	SD 18出土銅鐸形土製品165	第228図	S D1002東西部遺物出土状態写真239
第186図	SK 23土器出土状態168	第229図	S D1024遺物出土状態写真240
第187図	SK 23出土土器169	第230図	木製品および漆器243
第188図	SK 159出土土器(1) ·····170	第231図	S D1015出土五輪塔······244
第189図	SK 159出土土器(2)171	第232図	阿弥陀寺遺跡出土の鉄製品(X線写真)実物大…244
第190図	S K 255出土土器 ······173	第233図	I 期の谷・溝・自然流路246
第191図	S K 262出土土器(1)174	第234図	I 期遺構群分割概念図247
第192図	S K 262出土土器(2)175	第235図	遺構変遷図248
第193図	SB 04上層出土土器176	第236図	環濠推定復元図250
第194図	SB 25上層出土土器176	第237図	櫛描紋様の変化系列257
第195図	包含層一括出土土器177	第238図	IV期古相·····262
第196図	土器群出土位置177	第239図	IV期新相·····262
第197図	包含層出土土器180	第240図	細頚壺口頸部の変化・・・・・・263
第198図	脚状土製品180	第241図	櫛描紋の施紋順序と変化・・・・・・265
第199図	石器(1)182	第242図	磨消線紋の変化265
第200図	石器 (2)183	第243図	朝日形甕の変化・・・・・・266
第201図	SD 03木器出土状態184	第244図	底部成形技法266
第202図	木器185	第245図	盤状・脚状土製品の器高変化267
第203図	SB 70プラン・セクション186	第246図	台付甕脚台の変遷過程268
第204図	SD 07土層セクション186	第247図	III期台付甕に関わる各圏域268
第205図	SE・SX 土層セクション187	第248図	櫛描紋原体270
第206図	SB 70出土土器188	第249図	紋様要素の互換性271
第207図	土製品190	第250図	Ca 系統壺紋様の特徴 ······272
第208図	遺構配置図(鎌倉・室町時代)194	第251図	D系統(瘤状突起付太頚)壺の変化275
第209図	SD1023東西土層セクション197	第252図	W系統土器のイメージ······278
第210図	SD1024南北土層セクション197	第253図	III期各種甕分布圈······279
第211図	SD1025・1026南北土層セクション198	第254図	各系統相関図282
第212図	S D1038 • 1039写真······199	第255図	系統概念図と相関関係概念図285
第213図	SD1002東西土層セクション201	第256図	グループ別重鉱物組成(1)293
第214図	SD1001東西土層セクション201	第257図	クループ別重鉱物組成(2)294
第215図	SD1004・1005南北土層セクション201	第258図	Qz+Fl-Bt+Mv-Mf 三角ダイヤグラム298
第216図	SD1027~SD1031南北土層セクション201	第259図	赤色物質X線回折チャート301
第217図	井戸プラン・(土層)セクション(1)204	第260図	測定に用いた炭化米 (SK 312)301
第218図	井戸プラン・(土層)セクション(2)205	第261図	粒長 (I)•粒幅 (W)•分布図303
第219図	大型土坑 S K1001 • 1003写真211	第262図	長幅比度数分布図303
第220図	大型土坑土層セクション212	第263図	土鍋Aの胎土と形態307
第221図	大型土坑写真212	第264図	胎土重鉱物組成308

			表		目	y	7
第1表	遺構数の変化			12		第11表	分析試料一覧表290
第2表	管玉の法量分布			191		第12表	重鉱物分析結果291
第3表	床面レベル時期別度勢	数分布		245		第13表	阿弥陀寺・トトメキ遺跡の系統分類と胎土のグルー
第4表	遺構の重複関係			256		プ	295
第5表	櫛描紋種類別共存関係	系		258		第14表	勝川遺跡の系統分類と胎土のグループ296
第6表	B系統土器時期別出	上点数		273		第15表	瓜郷・西中遺跡の系統分類と胎土のグループ …296
第7表	甕 Da 分類別度数分	布		274		第16表	表面観察結果298
第8表	各系統土器出土比率			287		第17表	阿弥陀寺遺跡偏光顕微鏡観察結果299
第9表	石器種別点数			288		第18表	炭化米測定結果302
第10表	石鏃長形態別度数分	布		288		第19表	重鉱物分析結果 ······304
			_	覧	表	目改	Ċ
弥生時代	t						土器·陶磁器 ······330
	遺構			311			木製品·漆製品337
	土器・土製品			315			金属器337
	石器			327			石製品337
	管玉			328		植物遺	体(本文掲載以外)337
	木器			328			
鎌倉・国	医町時代						
	遺構			329			
			図	版		1 2	k
図版 1	弥生時代遺構全体図	1 : 1000				図版36	土器番号573~584
図版 2	弥生時代遺構全体図	北半部 1:	500			図版37	土器番号585~597
図版 3	弥生時代遺構全体図	南半部 1:	500			図版38	土器番号598∼612 ⋅ 635
図版 4	弥生時代遺構部分図	1:200				図版39	土器番号613~628
図版19		1 . 200				図版40	土器番号629~636
図版20	土器番号323~339					図版41	石器番号38~42
図版21	土器番号340~351					図版42	石器番号43~47
図版22	土器番号352~365					図版43	石器番号48~54
図版23	土器番号366~373					図版44	土器番号811~824
図版24	土器番号374~384					D71 145 4 5	上思承异995 - 990

図版46 土器番号840~850

図版47 土器番号851~857

図版48 石器番号74~82

図版49 土器番号1070~1082

図版50 土器番号1083~1086

図版51 土器番号1087~1106

図版52 土器番号1107~1133

図版53 土器番号1134~1162

図版54 土器番号1163~1178

図版55 土器番号1179~1187

図版25 土器番号385~403

図版26 土器番号404~415

図版27 土器番号416~431

図版28 土器番号432~457

図版29 土器番号458~480

図版30 土器番号481~493

図版31 土器番号494~508

図版32 土器番号509~542

図版34 土器番号547~555

図版35 土器番号556~572·549

図版33 土器番号543~546・455・458・465・482・485・495

図版56	土器番号1188~1201		図版88	土器編年I期~II期	B系統壺	
図版57	土器番号1202~1216		図版89	土器編年I期~II期	C系統壺他	
図版58	土器番号1217~1204		図版90	土器編年I期~II期	D系統甕・C系統深鉢	
図版59	土器番号1241~1246		図版91	土器編年III期	A系統太頸壺	
図版60	土器番号1247~1267		図版92	土器編年III期	A系統細頸壺	
図版61	土器番号1272~1281		図版93	土器編年III期	A系統甕他	
図版62	土器番号1282~1303		図版94	土器編年III期	B系統壺他	
図版63	土器番号1304~1317		図版95	土器編年III期	W系統壺	
図版64	土器番号1318~1325		図版96	土器編年III期	W系統甕他	
図版65	土器番号1326~1335		図版97	鎌倉•室町時代遺構会	全体図 1:1600	
図版66	土器番号1336~1357		図版98 ~	鎌倉•室町時代遺構	部分図 1:400	
図版67	土器番号1358~1365		図版104		部分図屋敷地 1 1:200	
図版68	土器番号1366~1369				·部分図屋敷地 2 · 3 1 : 20	0
図版69	土器番号1371~1386			# 1		U
図版70	土器番号1387~1398			土器番号2001~2029		
図版71	土器番号1399~1419		,	土器番号2071~2087		
図版72	土器番号1420~1433			土器番号2071~2087 土器番号2088~2139		
図版73	土器番号1434~1440			土器番号2141~2167		
図版74	土器番号1441~1448		,	土器番号2141~2107		
図版75	土器番号1449~1460		,	土器番号2214~2273		
図版76	石器番号113~120			土器番号2274~2326		
図版77	石器番号121~128			土器番号2327~2374		
図版78	土器番号1461~1475			土器番号2376~2429		
図版79	土器番号1476~1490			土器番号2430~2429 土器番号2430~2474		
図版80	土器番号1491~1508			土器番号2476~2551		
図版81	石器番号129~148					
図版82	石器番号149~157			土器番号2552~2583 土器番号2584~2626		
図版83	土器編年I期~II期	a 系統太頸壺	,	土器番号2627~2676 土器番号2627~2676		
図版84	土器編年I期~II期	A系統太頸壺				
図版85	土器編年I期~II期	A系統細頸壺		土器番号2677~2714		
図版86	土器編年I期~II期	A系統甕		土器番号2715~2762 土器番号2763~2799		
図版87	土器編年I期~II期	A系統各器種	<u> Д</u> л <u>Д</u> 124	上前田 72103~2199		

写真図版目次

写真図版 1	阿弥陀寺遺跡航空写真 北半部	写真図版8	方形周溝墓と土器出土状態
写真図版 2	阿弥陀寺遺跡航空写真 南半部	写真図版 9	遺物出土状態(1)
写真図版3	弥生時代中期環濠の切れ目、突出部(SX04)	写真図版10	遺物出土状態(2)
	と湾入部 (S X 05) 全景	写真図版11	I期A系統壺
写真図版 4	S D03・04弥生時代中期居住域内部と弥生時代	写真図版12	I期A系統甕
	後期環濠 (S D07)	写真図版13	I期C・D系統甕他
写真図版 5	弥生時代中期居住域内部(59H区北部)、井戸(S	写真図版14	I期C・B系統壺他
	E01)、大形土坑 (S X 10)	写真図版15	I期C系統深鉢他
写真図版 6	SB19, SB42 · 43 · 51 · 52, SB56	写真図版16	II期A系統壺
写真図版7	大形住居(SB28)と通常住居(SB59)、SB	写真図版17	II期A系甕他
	72、S B 36	写真図版18	Ⅲ期A系統壺

写真図版19 III期A系統甕、W系統壺

写真図版20 III期W系統壺

写真図版21 III期W系統各器種他

写真図版22 III期B系統壺、C系統深鉢

写真図版23 III期A系統台付甕脚台部、W系統甕

写真図版24 IV期土器各器種

写真図版25 石鏃各種

写真図版26 磨製石器各種

写真図版27 木器、土製品

写真図版28 鎌倉・室町時代集落部分(1)

写真図版29 鎌倉・室町時代集落(2)、井戸

写真図版30 灰釉系陶器椀・小皿、素焼小皿

写真図版31 施釉陶器、土鍋、羽釜、曲物、他

写真図版32(カラー) 阿弥陀寺遺跡出土の石斧および土器

の偏光顕微鏡写真



秋



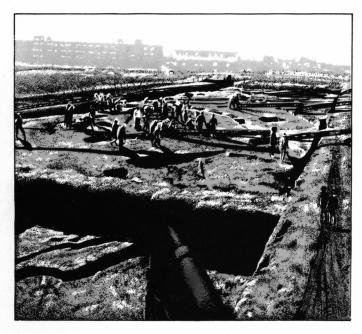
発掘作業

測量

小学生の見学



1.調査の経緯と経過	——— 石黒
2. 遺跡の概観	
A. 地理的環境と遺跡の立地	森
B. 歷史的環境	
弥生時代 —————	——— 石黒
鎌倉・室町時代 ————	北村





1. 調査の経緯と経過

A. 経 緯

所在地 阿弥陀寺遺跡は、愛知県海部郡甚目寺町大字石作・大字新居屋に存在する。すでに古く から遺物の散布地と知られ、磨製石剣など注目される遺物も採集されている。

原因 そうしたなかで、名古屋環状 2 号線の建設予定地に本遺跡の一部が含まれることになり、 そのため、道路建設に伴う事前調査として昭和56年度から発掘調査が実施されることに なった。

調査主体 昭和56年度より昭和59年度は財団法人愛知県教育サービスセンター埋蔵文化財調査部に よって発掘調査が実施され、昭和60年度からは新しく設立された財団法人愛知県埋蔵文化 財センターに業務が引き継がれ、昭和61年度まで継続した。

> 当初、弥生時代の遺跡として把握されていた阿弥陀寺遺跡も調査の進行で鎌倉・室町時 代の集落跡が重複することがわかり、結果遺跡の範囲も広がることになった。



第1図 遺跡位置図

B. 経 過

ぼ確実視されるようになった。

- 昭和56年度 調査面積1200m²で開始された初年度の発掘調査は、幅10mの側道部分ということであったが、弥生時代の遺構として住居跡、環濠、方形周溝墓らしい溝跡など各種が検出でき、時期区分についても大枠の設定ができた。それに対し鎌倉・室町時代に関しては溝のみで、集落跡であるという認識には至らなかった。
- 昭和57年度 調査面積は7940m²。幅7mの側道部分の調査で、南北600mという狭く長い発掘区であった。弥生時代の遺構は集落の様相を強く示し、新しい資料を得ることができた。鎌倉・室町時代は初めて井戸の検出があり、集落の可能性が浮上した。地形的な問題に関しては、狭く長い調査区の関係で長い土層セクションを作成することができた結果、谷や砂丘部分の復元がある程度可能となった。
- 昭和58年度 調査面積は5214m²。本年度も側道部分の調査で、これまでの調査範囲の北部に調査区が設定された。弥生時代の遺構は皆無であったが、現水田下に堆積した現代の客土中からは弥生土器が出土したので、阿弥陀寺遺跡の削平がかなり進んでいることが推定された。 鎌倉・室町時代は、集落内部の区画らしい溝や墓の跡が検出され、集落であることがほ
- 昭和59年度 調査面積8894m²。初めて本道部分の調査となった。弥生時代は、環濠の変遷が予想できるようになり、ほぼ集落景観も復元できるに至った。また鎌倉・室町時代は、屋敷地を囲む溝が確認できたことにより、弥生時代の集落範囲の北部に中心のあることが推定された。
- 昭和60年度 調査面積5519m²。弥生時代の集落部分の北部に調査区が位置したので、環濠北縁の状況が把握できた。意味不明の突部など、囲郭集落の全体設計に関わるような重要な遺構であるという感触があった。鎌倉・室町時代は、古瀬戸四耳壺などが大きな土坑から出土し墓的な遺構の存在が推定された他、礎板の遺存した柱穴が多数検出され、溝で区画された内部における建物の展開を知ることができた。
- 昭和61年度 調査面積1738m²。先年度と同様に建物群の検出があり、集落としての景観復元に近づいた。ただし、遺構面の削平のために同時存在の建物の抽出には困難がともなっている。

